

三種の宝~ひとつめ「ちのみち」の話

正月休みが明けて早々の、10日~12日の3日間、娘の師にあたる飯田茂実さんを京都よりお招きし、古来より伝わる心身術、三種の宝(みくさのみたから)を学ぶ集いを催しました。私もこの術を日々実行継続しながら消化し、身に付けて行こうと思っています。

三種の宝は、一、ちのみち 二、たなすえ(てあて) 三、おまじない です。謎めいていて、得体のしれぬ何かの宗教かと思われるかもしれませんが、違います。宗教よりはるか古く、ヒトの誕生、言葉の誕生にまで遡る、感応する力を自分の中に見出し、それが知恵の源なのだと、得心するための術です。飯田さんは、時を越え、命の流れを見失うことがないように大切に受け継がれた宝を、持ってきてくれました。この場で、少しでもお伝えすることができればと思います。悪文、理解のつたなさの向こうに、何かを感じていただければと、願います。

(飯田さん →)

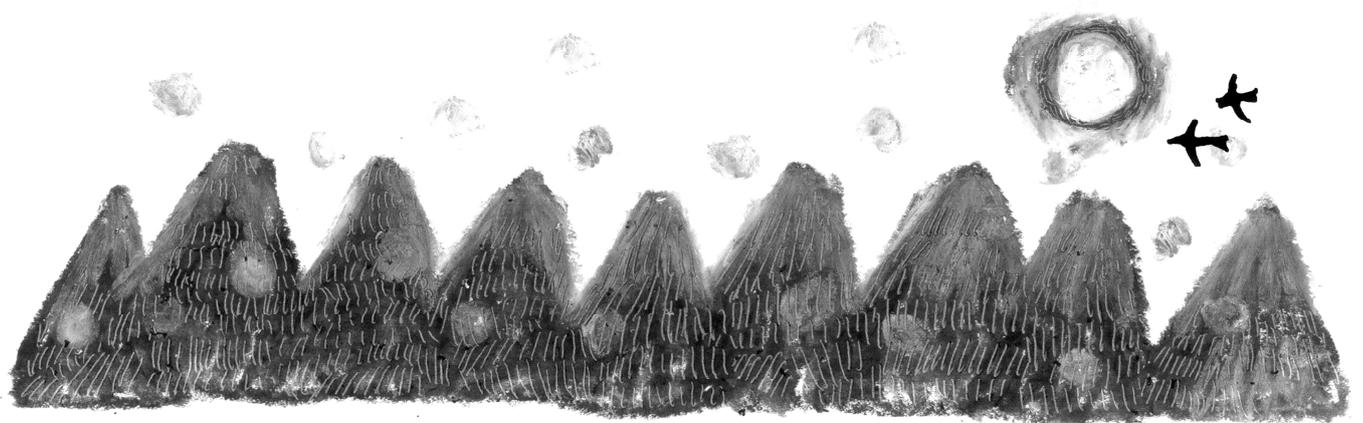


三つの宝の中の「ちのみち」の話を書いてみます。食べ物の仲立ちをして生活する、我ら百姓には、特別な任務があると思うからです。「ち」は、“ち”(血)だったり、“ちち”(乳)であったり、“ち”(風、たとえば東風を「こち」という)、つ“ち”(土)、さ“ち”(幸)、であったりと、象を変え私たちの元へやってきます。そうでなければ、我々はこれらを求め、体に取り込み、隅々に行き渡らせ、滞りなく通過させます。

我々の生きる姿の正体は、“ち”の道だと言えます。摂取と排泄の生命現象にとどまらず、世界を巡り流れる“ち”の道の、一区間を成していると感じられれば、幸せです。ところが、我々は、日々の生活の中で、心身に何か溜めこんだり、酷使したりと、流れの停滞や閉塞をおこします。放置すれば病んでしまう。その詰まりを解消する術が“ち”の道の術です。

飯田さんは、三つの主たる動作で、活元運動(自律的に体のゆがみを修復する動き)を誘い出して見せてくれました。(ご迷惑でなければ、続きを書かせてください、次号にて。晃)

娘が、上記イベントのために帰省しましたが、絵をかいてもらう余裕もなく・・・下の絵は、イベントのチラシに娘が描いたもの。3月には、最後の演劇公演が仙台であって、4月からは社会人。絵を描いてもらう機会はますます減りそうです。「いつかは、帰ってくる」と言っていますが。(1月21日 泰子)



菜園「野の扉」 伊藤 晃・泰子

〒369-1214 埼玉県大里郡寄居町今市228-3

TEL/FAX 048-582-3645 E-MAIL nonotobira@ybb.ne.jp